

エ1964年大会会場マップエ

⑨ 早稲田大学記念会堂(新宿区)

フェンシング、近代五種(フェンシング)

⑩ 後楽園アイスパレス(文京区)

ボクシング

⑪ 日本武道館(千代田区) 柔道

⑫ 東京大学検見川総合運動場

(千葉県千葉市)近代五種(クロスカントリー)

⑬ 所沢射撃場(埼玉県所沢市)

クレー射撃

⑭ 朝霞射撃場(埼玉県朝霞市)

射撃、近代五種(射撃)

⑮ 朝霞根津パーク(埼玉県朝霞市)

近代五種(馬術)

⑯ 戸田漕艇場(埼玉県戸田市)

ボート競技

⑰ 大宮蹴球場(埼玉県さいたま市)

サッカー



←現在もサッカー専用競技場、「NACK5スタジアム大宮」として利用されている。

東京23区の会場マップ

マラソンコース

国立競技場をスタート／ゴール地点とし、調布市で国道20号線＝甲州街道を折り返すというコースだった。

★マラソン折り返し点
(東京都調布市)



スタンドが大会にあわせて増築された国立競技場や、大急ぎで新築された国立代々木競技場など、各施設で筋書きのないドラマが展開された。うちいくつかは、2020年大会でも会場として用いられる。

東京は期間中、オリンピック一色にまとったよ！



各国からの5152人の選手が熱戦を繰り広げた舞台は、1都4県に分散して設けられた。

①国立競技場(新宿区)

約5万人収容のスポーツの聖地。
開会式・閉会式、陸上競技、サッカー、馬術

②秩父宮ラグビー場(港区)

サッカー

③東京体育館(渋谷区)

体操、水球

④国立代々木競技場(渋谷区)

水泳、飛び込み、近代五種(水泳)、バスケットボール

⑤渋谷公会堂(渋谷区) 重量挙げ

⑥選手村(渋谷区)

アメリカ軍の居住地跡地を活用。現在は都民のいこいの場・代々木公園に。



←3つの食堂に加え、美容室やショッピングセンターまであり、選手たちの国際交流の場でもあった。

⑦駒沢オリンピック公園(世田谷区)

国立競技場に次ぐ主力会場。

ホッケー、サッカー、バレーボール、レスリング

⑧馬事公苑(世田谷区) 馬術



↑案内所は競技場のほか、上野公園など人の集まる場所にもあった。



⑧八王子自転車会場(八王子市)

自転車競技

⑨相模湖(神奈川県相模原市) カヌー

⑩横浜文化体育館(神奈川県横浜市)

バレーボール



←1962年に開館して以来、現在もさまざまなスポーツ大会に使われている。

⑪三ツ沢蹴球場(神奈川県横浜市)

サッカー



←現在も「ニッパツ三ツ沢球技場」として、Jリーグの試合などに使われている。

⑫江の島ヨットハーバー(神奈川県藤沢市) ヨット

ヨット

⑬軽井沢総合馬術競技場

(長野県北佐久郡軽井沢町) 馬術

★軽井沢総合馬術競技場のみ、14～15ページのマップ圏外になります。会場の市町村名は現在のものです。当時、朝霞射撃場と朝霞根津パークは北足立郡朝霞町、戸田漕艇場は北足立郡戸田町、大宮蹴球場は大宮市、相模湖は津久井郡相模湖町です。

聖火リレー国外ルート



飛行機でも運んだ聖火

陸路でリレーされたオリンピア～アテネ間以外は、聖火は特別機によって空輸されて各都市を回った。



↑沖縄に到着した聖火輸送機。→飛行機での移動に際しては、途中で消えないようにこの「聖火保存灯」という装置に火を移して運んだ。



沖縄返還にもつながった

当時沖縄は1972年に返還されるまでアメリカによる統治下にあったが、聖火がリレーされたことで、本土復帰の気運が高まった。



↑9月7日に沖縄に到着した聖火は大歓迎され、人々は当時アメリカから禁止されていた日の丸をかけた。

1964年8月21日にオリンピアの神殿跡で太陽の光を利用して採った聖火は、アジアの各都市を回った。移動の総距離は約1万6000km、参加した走者は870人と、当時としては史上最も長のリレーとなった。



エ聖火リレーも大盛り上がり！

駆け抜ける聖火ランナーの姿に、沿道の人々は競技への期待に胸をふくらませた。

平和の炎が東京に集まった

聖火は4コースに分かれて1か月かけて全都道府県をリレーされたのち、10月7日から9日にかけて東京に到着。再び1つになった平和の炎によって、オリンピックムードにも火がついた。



→ 中央区をリレーされる聖火。4つの聖火は当時千代田区にあった東京都庁をいったんのゴールとするコースを採った。



↑10月9日、皇居前に設置された集火台に聖火がまとめられた(左)。➡大学1年生で、陸上選手でもあった坂井義則さん(矢印)が最終ランナーの大役を果たした。

本土でも空輸、地上リレーされた総距離は9447km、参加走者総数は10万人を超えるという大イベントとなった聖火リレー。

平和の祭典にふさわしく、最終走者をつとめたのは1945年8月6日の原爆投下の日、広島県で生まれた大学生。10月10日の開会式、国立競技場の聖火台にアジアカ初の聖火がともされた。



①



↑2014年に発売された世界初の燃料電池乗用車、トヨタ「MIRAI」。価格は723万6000円だが、買うと国から202万円の補助金が出る。

燃料電池自動車が そこかしこを走る!

2020年には、119ページで紹介したBRT以外にも、燃料電池自動車は東京のあちこちで見られそう。国がその普及のために買う人に補助金を出すだけでなく、東京都もバスや公用車などに使おうとしているからだ。

②



←トヨタと日野自動車が共同開発した燃料電池バス。都営バスに導入することなどが検討されている。

トヨタ FC BUS

燃料電池船

→自動車ではないが、燃料電池で動く船も開発中だ。2020年には隅田川や東京湾で、水上バスや屋形船として活躍するか!?



水素ステーション

←燃料電池自動車の普及に欠かせないのが水素を充てんできる場所。ガソリン車でいう「満タン」にするまでは約3分だ。



↑2016年6月現在、都内には11か所。都内のどこからでも15分で行けることを目標に整備されている。



→トレーラーに水素を充てんする機械を積んだ、移動式のステーションもある。



2020年 大会から 水素社会が始まる

施設や交通機関で使う熱や電気を水素から作る。大会に訪れる人々に、石油に代わるエネルギーを提案する計画が進められている。



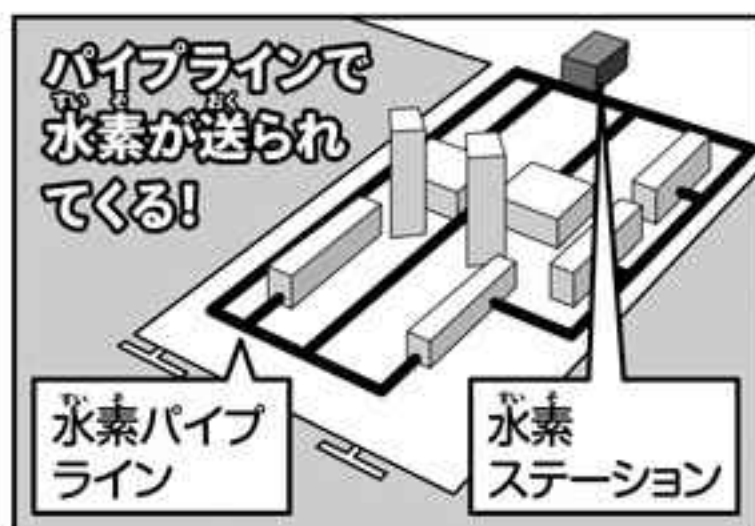
↑2020年大会終了後の選手村イメージ。住宅棟はマンションとして販売されて、学校なども作られて一般の人々が暮らす町に変わる予定。→大会期間中から、水素が巨大なパイプを通して選手村に送られてきたり、水素ステーションを設置したりする構想もある(※イラストは編集部予想)。



↑新国立競技場でもその敷地内に、燃料電池を設置できる場所や、水素自動車などが使えるように水素スタンドを設置できる場所を確保する計画がある。

選手村は 水素タウンに!

東京港・晴海ふ頭に誕生する選手村。そこで使われる電気や熱の一部を水素から作る計画がある。各国の選手に水素を使った生活を体験してもらい、石油に代わるエネルギーの一つになることを世界にアピールするのがねらいだ。



水素が酸素と結びついて水になるときに生まれる電気や熱。いまは石油や天然ガスから作っているが、それを水素に変えよう——国や東京都は、2020年大会をそう世界に表明する絶好の機会ととらえている。石油や天然ガスは燃やすことで地球温暖化の原因となるガスを出すうえに、いずれば掘りつくされる。いっぽう水素は燃やしても水になるだけではなく、さまざまな物質から取り出せる。1964年にはオリンピックの衛生生中継や新幹線開業などによって、高い技術力を見せつけた日本。2020年大会では水素で世界をおどろかせる!?